



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月9日

上場会社名 株式会社第一興商 上場取引所 東
 コード番号 7458 URL <http://www.dkkaraoke.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 保志 忠郊
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 小林 成樹 (TEL) 03 (3280) 2151
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	106,690	1.0	17,167	7.8	18,017	2.0	11,478	26.8
29年3月期第3四半期	105,639	△0.9	15,931	1.9	17,656	5.6	9,053	△11.3

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 12,076百万円(△1.2%) 29年3月期第3四半期 12,217百万円(42.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	201.19	201.01
29年3月期第3四半期	157.41	157.30

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	188,305	123,923	65.0
29年3月期	186,954	119,069	62.9

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 122,387百万円 29年3月期 117,574百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	54.00	—	55.00	109.00
30年3月期	—	55.00	—		
30年3月期(予想)				55.00	110.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	141,200	0.4	20,800	0.5	21,300	△5.5	13,100	17.9	229.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	30年3月期3Q	57,234,200株	29年3月期	57,434,200株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	266,168株	29年3月期	303,168株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	30年3月期3Q	57,051,628株	29年3月期3Q	57,516,856株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日～平成29年12月31日、以下「当第3四半期」という)におけるわが国の経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に景気は緩やかな回復基調にあるものの、欧米諸国の政治情勢への懸念や地政学的リスクの高まりなど、依然として不透明な状況で推移いたしました。

当カラオケ業界におきましては、ナイト市場は依然として漸減傾向で推移しており、また、カラオケボックス市場においても大手事業者間の競争が激しさを増すなか、市場は僅かながら減少いたしました。一方、エルダー市場においては、「歌うこと＝健康」の認知が拡がり、市場は順調に拡大いたしました。

この様ななか、各事業におきまして諸施策を実施した結果、当第3四半期の売上高は106,690百万円(前年同期比1.0%増)、営業利益は17,167百万円(同7.8%増)、経常利益は為替差益の減少があったものの18,017百万円(同2.0%増)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、特別損益が改善したことにより、11,478百万円(同26.8%増)となりました。なお、当第3四半期における売上高及び各利益については、すべて過去最高となっております。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	105,639	106,690	1,051	1.0%
営 業 利 益	15,931	17,167	1,235	7.8%
経 常 利 益	17,656	18,017	361	2.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,053	11,478	2,424	26.8%

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(業務用カラオケ)

当事業におきましては、長期安定的な収益基盤の強化を図るべく、機器賃貸・情報提供料収入の拡大に注力いたしました。成長市場と位置付けるエルダー市場においては、民間施設に加え自治体施設への導入施策強化により、着実に稼働台数が増加しております。また発売から3年目となる「LIVE DAM STADIUM」シリーズの新商品「LIVE DAM STADIUM STAGE」を昨年10月に発売し、商品ラインアップの強化を図りました。

以上の結果、商製品販売の減少により売上高は前年同期比2.9%の減収となったものの、利益面においては前期計上した一時費用の減少やコスト低減に努めたことにより、営業利益は前年同期比2.2%の増加となりました。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	50,448	48,995	△1,452	△2.9%
営 業 利 益	11,428	11,678	250	2.2%

(カラオケ・飲食店舗)

当事業におきましては、店舗サービス品質の向上に注力し、人材の確保、教育の強化に努めるほか、店舗リニューアルや既存業態のブラッシュアップなどに取り組んでまいりました。また、昨年6月には首都圏を中心に「カラオケマック」40店舗をチェーン展開する株式会社Airsideの全株式を取得し子会社化しております。

以上の結果、最大の商戦期である12月を含め、カラオケ・飲食店舗とも好調に推移したことに加え、子会社化した株式会社Airsideの収益が寄与したことにより、売上高は前年同期比6.6%の増加、営業利益におきましては、前年同期比11.8%の増加となりました。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	42,906	45,723	2,817	6.6%
営 業 利 益	5,754	6,435	680	11.8%

(音楽ソフト)

当事業におきましては、グループネットワークの活用及び連携強化による相乗効果と業務の効率化に注力いたしました。また、積極的に新人アーティストの発掘とヒット曲の創出に努めてまいりましたが、事業環境は依然厳しい状況で推移しております。

以上の結果、売上高が前年同期比10.5%減少したことにより23百万円の営業損失となりました。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	6,599	5,907	△691	△10.5%
営 業 利 益	28	△23	△52	—

(その他)

当事業におきましては、光回線を活用したBGM放送サービス「スターデジオ光」を中心としたBGM放送事業及びパーキング事業の拡大に努めるほか、コンシューマー向けストリーミングカラオケサービス、不動産賃貸などが堅調に推移いたしました。

(百万円)

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	5,685	6,063	378	6.7%
営 業 利 益	1,132	1,227	94	8.3%

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ1,350百万円増加し、188,305百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動資産では、現金及び預金が10,358百万円減少し、有価証券が3,718百万円増加しております。

固定資産では、カラオケルーム及び飲食店舗設備が1,494百万円、土地が1,300百万円、有形固定資産のその他に含まれる建物及び構築物が733百万円、のれんが3,097百万円及び投資有価証券が599百万円それぞれ増加しております。なお、のれんの増加につきましては、株式会社Airsideの全株式を取得し、連結の範囲に含めたことによるものであります。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ3,502百万円減少し、64,382百万円となりました。

これは主に、流動負債の1年内償還予定の社債を3,500百万円償還したことによるものであります。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ4,853百万円増加し、123,923百万円となりました。

これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加11,478百万円、剰余金の配当による利益剰余金の減少6,275百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年5月15日に発表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	62,019	51,660
受取手形及び売掛金	6,792	6,170
有価証券	—	3,718
たな卸資産	6,158	6,678
その他	5,884	6,533
貸倒引当金	△181	△166
流動資産合計	80,673	74,595
固定資産		
有形固定資産		
カラオケ貸貸機器(純額)	10,708	10,600
カラオケルーム及び飲食店舗設備(純額)	18,456	19,950
土地	36,714	38,014
その他(純額)	7,273	8,445
有形固定資産合計	73,153	77,010
無形固定資産		
のれん	1,321	4,419
その他	5,807	5,934
無形固定資産合計	7,129	10,353
投資その他の資産		
投資有価証券	4,959	5,558
敷金及び保証金	14,267	14,181
その他	6,808	6,683
貸倒引当金	△37	△78
投資その他の資産合計	25,998	26,345
固定資産合計	106,280	113,709
資産合計	186,954	188,305

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,343	4,708
短期借入金	14,163	14,472
1年内償還予定の社債	3,500	—
未払法人税等	3,206	2,887
賞与引当金	1,096	1,079
その他	12,881	11,531
流動負債合計	38,191	34,680
固定負債		
社債	6,500	6,500
長期借入金	13,268	12,933
役員退職慰労引当金	1,053	1,009
退職給付に係る負債	5,775	6,086
その他	3,096	3,173
固定負債合計	29,693	29,702
負債合計	67,884	64,382
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,350	12,350
資本剰余金	4,003	4,003
利益剰余金	102,649	106,852
自己株式	△1,368	△1,308
株主資本合計	117,634	121,897
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,033	1,459
土地再評価差額金	△733	△733
為替換算調整勘定	80	127
退職給付に係る調整累計額	△440	△363
その他の包括利益累計額合計	△60	489
新株予約権	178	182
非支配株主持分	1,316	1,352
純資産合計	119,069	123,923
負債純資産合計	186,954	188,305

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	105,639	106,690
売上原価	64,491	64,233
売上総利益	41,147	42,457
販売費及び一般管理費	25,215	25,289
営業利益	15,931	17,167
営業外収益		
受取利息	251	43
受取協賛金	276	261
為替差益	792	228
その他	788	750
営業外収益合計	2,109	1,283
営業外費用		
支払利息	250	239
その他	134	193
営業外費用合計	384	432
経常利益	17,656	18,017
特別利益		
固定資産売却益	4	100
固定資産譲受益	370	24
投資有価証券売却益	4	0
特別利益合計	379	124
特別損失		
固定資産処分損	304	225
減損損失	126	151
投資有価証券売却損	8	—
投資有価証券評価損	3,305	—
特別損失合計	3,744	376
税金等調整前四半期純利益	14,291	17,765
法人税、住民税及び事業税	5,086	5,995
法人税等調整額	101	243
法人税等合計	5,188	6,239
四半期純利益	9,103	11,525
非支配株主に帰属する四半期純利益	49	47
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,053	11,478

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	9,103	11,525
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,121	425
為替換算調整勘定	△85	47
退職給付に係る調整額	78	77
その他の包括利益合計	3,114	550
四半期包括利益	12,217	12,076
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,168	12,028
非支配株主に係る四半期包括利益	49	47

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	50,448	42,906	6,599	99,953	5,685	105,639	—	105,639
セグメント利益 (営業利益)	11,428	5,754	28	17,211	1,132	18,344	△2,412	15,931

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、BGM放送事業、Web事業及び不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,412百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	48,995	45,723	5,907	100,627	6,063	106,690	—	106,690
セグメント利益又は 損失(△) (営業利益又は営業 損失(△))	11,678	6,435	△23	18,090	1,227	19,317	△2,149	17,167

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、BGM放送事業、Web事業及び不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△2,149百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産の減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な異動)

「カラオケ・飲食店舗事業」において、株式会社Airsideの全株式を取得したことに伴い、連結の範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において、3,603百万円であります。なお、取得原価の配分が完了していないため、のれんの増加額は暫定的に算定された金額であります。